2023年1月1日発行（1、4、10月の1日発行・年3回）通巻1176号

United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization

公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟

ユネスコ

2023.1
vol. 1176

書きそんじハガキ・キャンペーンのキャラクター、タンスから飛び出す3兄弟

CONTENTS

1 特集：書きそんじハガキ・キャンペーン 2023、スタート！
3 会長新年挨拶
4 活動報告
●ユネスコ協会・ウクライナ緊急募金
5 ●第78回 日本ユネスコ運動全国大会in木更津
7 ●2022年度ブロック別 ユネスコ活動研究会
9 ●アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム 教員研修会
10 ●世界寺子屋運動
●三菱アジア子ども絵日記フェスタ
11 お知らせ
●臨時総会・理事会・評議員会報告

書きそんじハガキ・キャンペーン2023がスタート！

「タンス遺産が あっタンス!!」のキャッチコピーで、今年も「書きそんじハガキ・キャンペーン2023」が始まりました。並んでいるのは、おなじみ“タンス遺産3兄弟”のキャラクター。3兄弟とは、ハガキの「書きそんジロー」を中心に、切手の「貼りそんジロー」、プリペイドカードの「使いそんジロー」です。

本キャンペーンでは、書きそんじハガキだけでなく、切手や商品券、プリペイドカード類も受け付けています。切手コレクションや、未使用のテレホンカード、クオカード、図書カード、全国百貨店共通商品券、旅行券、ビール券などのタンス遺産があればお送りください。金券ショップで換金が可能なものはすべて受け付けており、一年中いつでもご協力いただけます。中には、昭和時代の古い切手コレクションを送ってくださる方もいらっしゃいます。

年末の大掃除や断捨離で、タンスに眠っていた金券類が見つかりましたら、ぜひご自宅から気軽にできる国際協力をよろしくお願いします。

きょういくで、あしたへいく。

特集

書きそんじハガキ・キャンペーン2023、スタート！

今年も書きそんじハガキ・キャンペーン2023が始まりました。この活動が開始されて30年以上が経ちました。ハガキや切手、金券などの「タンス遺産」をもとにした資金は、現在、世界寺子屋運動への募金の約4割を占めています。皆さまに感謝を申し上げるとともに、引き続きのご協力をお願いします。

（海外事業課）

書きそんじハガキ・キャンペーン2022のご報告

書きそんじハガキ・キャンペーン2022（2021年12月～2022年11月）では、2022年10月末現在、「タンス遺産」によるご協力は4781万円相当にのぼりました。ユネスコ協会・クラブからの155件をはじめ、学校・団体からは328件、個人の方々も含めると、合計2238件と、たいへん多くの支援が集まりました。

CM・動画の活用で回収率UP!!

サービス・ツーリズム産業労働組合連合会（以下サービス連合）より

サービス連合では、結成10周年に「明日づくりプロジェクト」と名付けた社会貢献活動を始め、そのひとつが書きそんじハガキの回収でした。2022年1月21日の中央委員会では、休憩時間中にタンス遺産3兄弟のCMや世界寺子屋運動の動画を流し、独自に作成した告知ポスターを掲出し、多くのハガキの回収につながりました。連合会として、基本理念に福祉社会や環境にやさしい社会の実現と世界恒久平和の実現を掲げており、今後も地域や国際社会で取り組みを推進していく方針です。

中央委員会では世界寺子屋運動の動画を視聴

ユネスコ協会による書きそんじハガキ回収数ベスト20

1	鹿児島ユネスコ協会	11	諏訪ユネスコ協会
2	大分県ユネスコ協会連盟	12	杉並ユネスコ協会
3	富山ユネスコ協会	13	特定非営利活動法人鎌倉ユネスコ協会
4	熊本ユネスコ協会	14	高崎ユネスコ協会
5	飯田ユネスコ協会	15	岩国ユネスコ協会
6	舞鶴ユネスコ協会	16	福知山ユネスコ協会
7	下関ユネスコ協会	17	沖縄県ユネスコ協会
8	三重県ユネスコ連絡協議会	18	長浜ユネスコ協会
9	山口ユネスコ協会	19	釧路ユネスコ協会
10	尼崎ユネスコ協会	20	大船渡ユネスコ協会

ブロック別ランキングベスト3

1	九州ブロック
2	近畿ブロック
3	関東ブロック

©DENTSU INC.

（2021年12月～2022年10月集計）

キャンペーン2022の支援でできたこと

新しい寺子屋をカンボジアで1軒建設し、主にカンボジアとネパールで合計2721人の人びとが教育プログラムや技術訓練で学ぶことができました。学校に行きたくても行けない、最も教育から遠ざけられてしまう人びとに、学びの基礎となる識字をはじめ、生活スキルに至るまで幅広い教育を届けることができました。

アフガニスタンとミャンマーでは政情不安の中でさまざまな配慮を要しますが、引き続き情報収集をもとに現地関係者と再開に向けて協議を行っています。

＼学習者から「ありがとう！」／

thank you!!

サーン・スワさん（19歳・カンボジア）

家が貧しく、畑仕事をしなければならなかったので、5年生のときに学校を中退しました。本当はやめたくなかったので、通学する同世代の皆を見て悔しい思いをしていました。いまは識字クラスに通って、以前に学んだことを思い出しています。苦手な算数も少しずつわかるようになり、とてもうれしいです。毎日、両親と一緒に畑仕事をした後で寺子屋に行くので、疲れていますが休みたいとは思いません。最後まで通い続けます。学びの機会をいただきありがとうございます。

小学校クラスで学ぶ子どもたち（カンボジア）

職業訓練でヤギの飼育に取り組む（ネパール）

書きそんじハガキ・キャンペーン2023にご協力ください

今年のキャンペーンでは「タンス遺産が あっタンス!!」のキャッチコピーで、ポスターやCM動画などで書きそんジローたち3兄弟が明るく登場します。一人でも多くの人たちに教育の機会を届けられるよう、ご協力をお願いいたします。

⬅キャンペーン動画はこちらから

⬅特設ホームページはこちらから

タンス遺産3兄弟　©DENTSU INC.

▲タンス遺産POST

▲チラシ

▲ポスター

ともに考え、学び合う社会に向けて

2023年 会長新年挨拶

公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟 会長
佐藤 美樹

謹んで新年のお慶びを申し上げます。本年が皆さまにとって素晴らしい一年となりますことを心よりお祈り申し上げます。

さて、昨年からのウクライナ情勢は収束の道筋が見えず、また世界寺子屋運動の支援地であるアフガニスタンやミャンマーでも、不安定な政情のもと厳しい状況が続いています。さらに、台湾海峡での緊張の高まり、北朝鮮による弾道ミサイルの発射など、アジアや日本の近くでも平和が脅かされています。1951年の日本のUNESCO加盟以来、いまほど平和の大切さ、民間ユネスコ運動の重要性が高まっている時代はありません。

そのような中にあって、私たちは、UNESCO憲章の理念をしっかりと受け継ぎ、相互理解や互恵の精神を育み、一人ひとりが賢くならねばなりません。時間はかかるかもしれませんが、平和な世界のために、ともに学びを深め、活動に取り組んでいきましょう。

私たちは、どのような状況下においても世界の人びとが学びの機会から疎外されることのないよう、これからも国内外での教育を支援し、より幅広い世代の皆さまにご参画いただけるよう取り組んでまいります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

ユネスコ協会・ウクライナ緊急募金 支援報告

2022年3月4日から5月31日まで呼びかけた標記募金は、多くの会員、協力企業・団体、個人の方々の賛同で、合計863件・8194万9090円にのぼりました。

今回は、この募金による支援先の中で最大規模の活動を展開する、人道支援NGO「ピープル・イン・ニード・スロバキア」（以下PINSK）からの報告を紹介します。　（海外事業課）

緊急対応から生活のケアまで 人びとを孤立させない支援を

PINSKでは、ウクライナとスロバキアの国境地点と、国境を挟んだ両国内のそれぞれで、避難してきた人びとを支援してきました。

国境での一時避難施設は、スロバキア側に3ヵ所、ウクライナ側に1ヵ所設け、寒さをしのげるテント・衣類やトイレを設置し、温かい飲みものや食べものを用意しました。

ウクライナ西部ザカルパッチャ州では、6郡50地域で、各地域行政と連携して約6万人を受け入れました。食糧や生活用品の調達と配布は総量480トンにのぼりました。並行して心理ケア、仕事や入園・就学の相談、住環境整備など切実なニーズに応えています。

スロバキアへの入国者への支援も、4地域13市以上で行っています。最も重視していることは、避難者が孤立しないことです。就職や教育はもちろん、医師や行政とのコミュニケーション支援から個人的な悩み相談にも応じます。国境地点での支援対象者を除き、約2500人の避難者の人びとに対応してきました。

※数字は2022年9月末までの実績。なお、実績は日本ユネスコ協会連盟以外の寄付も含めて行われたもの。

PINSK広報より

緊急支援の段階が過ぎ、我々の活動は、この先の数年を視野に入れたものにシフトしつつあります。日本の皆さまには、私たちの最も重要なサポーターの一つとなってくださり、心から感謝しています。

▲避難所への食糧やポットなどの運搬　©Peter Voloscuk

▲心理ケア・ワークショップのようす　©Peter Voloscuk

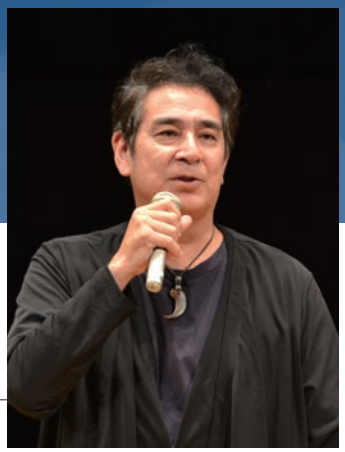
▲動物との触れ合いでは子どもたちに笑顔が見られた　©Peter Voloscuk

▲支援された文具やお絵かき用具など　©Peter Voloscuk

第78回 日本ユネスコ運動全国大会 in 木更津

2022年11月26日(土)、第78回全国大会が開催されました。「誰一人とり残さない平和で持続可能な未来を目指して『オーガニックシティ木更津からの発信』」と題し、安心して暮らせる未来について皆で考える大会となりました。開会式に続いて行われた俳優・宇梶剛士さんの記念講演を紹介します。(広報課)

▶概要はp6



記念講演(抄録)

明日に向かって生きる　俳優　宇梶剛士

人権活動に身を投じた母

今日は「明日に向かって生きる」ということで、過去を見つめ、いまを生き、いまという場所から未来を望むことができればと思います。僕の母親は人権問題と向き合い生きてきました。あまりに一心不乱に取り組みすぎて、家族は離散状態となり、僕は中学1年で家を飛び出しました。その生い立ちが僕の人権との出会いであり、今日につながっているので、それを今日はお話しします。

母は北海道のアイヌ民族で、過酷な同化政策により、他のアイヌ同様、貧困家庭で育ちました。そのため、子どものころから働いていましたが、20歳のとき親に頼んで中学へ。卒業後に上京し、やがて父と結婚して姉と僕が生まれます。そして、なんとか世の中を見渡せるようになったとき、母が出会った価値観が人権でした。

母が初めて取り組んだ人権問題は男女平等で、続いて自分の出自であるアイヌ問題に身を投じていきます。日本にはなんと1997年まで「旧土人保護法」という法律があり、アイヌは「土人」とされていたのです。けれども、アイヌには素晴らしい文化があり、日本人に比べてどちらが劣っているということはない。2019年、国はアイヌが先住民族であるとようやく認めました。母だけでなく、火の玉のように活動を続けた多くの人たちの力が国を動かした結果です。

背負い続けた悔しさを乗り越えて

人権活動で注目された母は、講演などで全国を駆け回り、次第に家を空けるようになりました。典型的なサラリーマンの父も多忙で、家にいるのはいつも姉と僕だけ。それで僕は中学1年のとき、「何が社会のためだ。家に帰りもしないで」と家を飛び出し、親戚のアパートに転がり込んだのです。以来、一度も家族とは暮らしていません。

子ども時代のことを思うと、どんより暗い気持ちになりますが、そんな僕にも夢がありました。プロ野球の選手になることです。野球さえやっていれば、自分を保てたし、未来のことを考えられた。それで野球の強い高校に進んだのですが、先輩の激しい暴力が続き、耐えきれずに皆で抗議しました。けれども、学校は暴力沙汰を隠そうと、抗議は騒動とされ、なぜか僕だけが2ヵ月にわたり野球を禁じられ、心がどんどん壊れていきました。

ガキ大将だった僕は、暴走族となった幼馴染と再会し、大変な事件を起こしてしまいます。逮捕された後に暴走族のリーダーとなって、少年院へ。そこで読んだのが、喜劇王チャップリンの自伝でした。幼いころから苦労を重ね、それでも夢を諦めずに努力を続け、世界のスターになっていった人生。それに比べて俺は何だ。なんでこんな鉄格子の中にいるんだよ。プロ野球選手になりたかったのに、不良になってどんどん人から嫌われていく。そういう自分が恥ずかしくて、感動と恥ずかしさで泣きました。泣いて泣いて、心に溜まった泥が少し流れたのか、もう不良はやめようと思いました。おとなに裏切られたことは許せないけれど、あんなおとなにならなければいいんだと。それからは再び高校に通い、今日は俳優として皆さんの前に立たせていただいています。母との思い出は非常に少ないですが、僕も人権を学んできたので、いまでは母はかけがえのない先輩だと思っています。

教室でも職場でも世界でも、隣にいる人と目を合わせたとき、何か行き交うものがあれば少しでも住み心地がよくなる。そういう感覚をお持ちの方が、ユネスコ運動に関わっておられるのだと思います。どうかこれからも皆さんの心の温度で、冷めかけているこの星の人の心を、お一人お一人の居場所から温めてください。

profile

うかじ・たかし

東京都出身。舞台、ドラマ、映画などで活躍するかたわら、2020年、北海道のウポポイ(民族共生象徴空間)PRアンバサダーに就任。劇団PATHOS PACK公演「トワノアイ」映像版が全国順次公開中。

第78回 日本ユネスコ運動全国大会 in 木更津 大会概要

開会式、記念講演に続いて、地元・木更津市の小学校による実践発表や、木更津市長をはじめとするパネリストらによるパネルディスカッションなどが行われました。

・開　催　地：千葉県木更津市・かずさアカデミアホール
・参加者数：約420名(対面による開催)
・主　　催：日本ユネスコ協会連盟・千葉県ユネスコ連絡協議会
・主　　管：木更津ユネスコ協会　　木更津市制施行80周年記念協賛事業

実　践　発　表

共生社会実現を目指した取り組み

木更津市立清見台小学校児童

清見台小学校は、東京2020 パラリンピック閉会式で共生社会実現につながるパラリンピック教育を積極的に実践した学校として、『I'mPOSSIBLE アワード 開催国最優秀賞』を受賞しました。児童たちからは、ブラインドサッカーや福祉体験、パラリンピアンとの出会いなどを通して、「学校や身の回りで、障害のある方が不自由を感じないよう生活していくためにはどうしたらよいか、深く考えるようになりました」との話がありました。

発表する清見台小学校の児童

日本での活動について

木更津市まなび支援センター外国語指導助手(ALT)
キャサリン・ジュンゲ氏

木更津市内の小・中学校でALTとして活動する中で、「いま子どもたちに伝えたいこと。ケニアから日本に来て感じたたくさんの思いと、多様性の素晴らしさ」について発表しました。外国語を学ぶ上でいちばん伝えたいことは、「間違えを恐れず、心を開いて、たくさんの人と交流を楽しんでほしい」と生徒たちにエールを送りました。

生徒に英語を教えるジュンゲ氏（左）

パネルディスカッション　大会と同じテーマで、吉崎晴子氏（日ユ協連理事）を司会として3名のパネリストから下記の話をいただきました。

■**渡辺芳邦氏（木更津市長）**／木更津市の地域社会を構成する多様な主体が一体となり、人と自然が調和した持続可能なまちとして、次世代に継承することを目指す「オーガニックなまちづくり」について

■**新井洸真氏（㈱KURKKU FIELDS）**／「育てる・作る・食べる・循環する」を重点としたKURKKU FIELDSの考える「サステナブルなこれからの暮らし方、生き方」について

■**宮﨑栄樹氏（木更津社会館保育園園長）**／木更津社会館保育園の行う、自然の中で免疫を持った子どもの育て方について

▲パネリストの3名。右から渡辺氏、新井氏、宮崎氏

▲司会の吉崎氏

次回開催地は山梨県　第79回日本ユネスコ運動全国大会は、富士山の世界文化遺産登録から10年の節目ということもあり、富士山の麓、富士吉田市で2023年9月9日(土)に開催します。

未来のあたりまえをつくる。
DNP

これがアンテナ…？
もっとつながる未来が
実現しそうですね！

このフィルム、肉眼では分かりませんが、超微細な5Gアンテナが
印刷されているんですって。無色透明なフィルムだから、スマホやパソコン、
家電やクルマなど、いろんなシーンや用途で活用できそう。
この見えないアンテナがあたりまえになったら、
私のメガネも5Gにつながるかも…？

大日本印刷株式会社

＼＼ 対面での開催が再開！ ／／

2022年度 ブロック別 ユネスコ活動研究会報告

2022年10月8日（土）から11月19日（土）にかけて、北海道から九州まで全国8ブロックで「ブロック別ユネスコ活動研究会」が行われました。今回はようやく対面での開催が実現し、地域の世界遺産や未来遺産についての講演のほか、地元の子どもたちによる伝統文化の継承やSDGsに関する学習など、地域の特色を生かした研究会となりました。また、日本ユネスコ国内委員による活動報告も行われ、UNESCOや政府の最新情報が共有されました。（国内事業課）

● 北海道ブロック・ユネスコ活動研究会

■10月15日(土) 北海道　■主管：旭川ユネスコ協会

「平和な未来を創る～ユースや他組織との協働で持続可能な地域づくりを」をテーマに開催しました。今年のキーワードは「協働」「ユース」の二つ。ユースと連携し、他団体と協働することによって、今後の民間ユネスコ運動の新たな展開を目指すことを提案しました。北海道外のユネスコ協会の方が講師として出演したほか、参加者同士が車座になって討論するなど、これまでにない画期的な研究会の手法を取り入れました。コロナ禍でしばらく会えなかった参加者同士が熱心に議論しあう貴重な場となりました。

車座での討論に熱がこもった

● 東北ブロック・ユネスコ活動研究会

■10月8日(土) 青森県　■主管：青森県ユネスコ協会

「特徴ある自然や地域文化の継承と未来に向けた創造～縄文文化に学び、持続可能な地域社会を作ろう～」をテーマに、基調講演「縄文遺跡群の世界的価値」をはじめ、小中学生による事例発表（遺跡の子どもガイド、総合学習の時間での遺跡についての学習、魚網づくりなど）、発表を行った子どもたちによるパネルディスカッションを行いました。地元の世界遺産について多くを学ぶ機会となり、また、配信によって会場以外の場所でも研究会を視聴することができました。

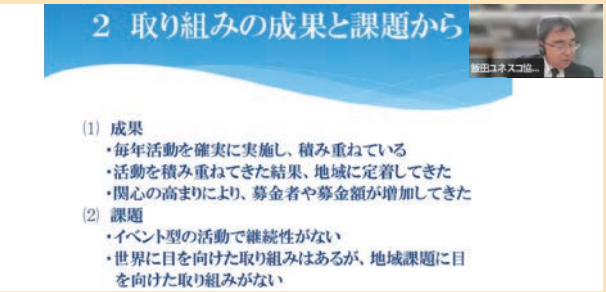
子どもたちによる活発なパネルディスカッション

● 中部東ブロック・ユネスコ活動研究会（オンライン）

■11月19日(土)長野県　■主管：飯田ユネスコ協会

「ESD推進のために、学校・地域・ユネスコ協会はどのような連携を行ったらよいか」をテーマに開催しました。研究会はYouTubeでライブ配信し、他のブロックから参加する視聴者もありました。国内委員や青年代表評議員による活動報告に続き、元長野県生涯学習推進センター長の木下巨一氏が基調講演を、飯田ユネスコ協会の牧原雅会長が事例発表を行いました。

最後に、日ユ協連の理事でもある信州大学の安達仁美准教授が「ESDは子どもたちだけでなく、私たちおとなも当事者。今日のような（オンラインでの）学びの場が持続可能なユネスコ活動にも必要となってくる」と語り、まとめとしました。



飯田ユネスコ協会による研究事例発表のようす

● 中部西ブロック・ユネスコ活動研究会

■10月22日(土) 愛知県　■主管：豊橋ユネスコ協会

テーマは「持続可能な社会をめざす地域ユネスコ活動の実践」。高校生によるオープニング演奏、鈴木佑司日ユ協連理事長の基調講演「SDGsと地域ユネスコ活動の役割」、日本ユネスコ国内委員会報告に続き、中部西ブロック6県が実践発表を行いました。発表では、どの協会も、コロナ禍の制約に苦慮しながら力強く活動を継続していることを報告。また、会場には開催地・豊橋の戦争遺跡に関するパネルなども展示し、充実した内容となりました。

中部西ブロックの6県それぞれが実践報告を行った

近畿ブロック・ユネスコ活動研究会

■11月5日(土) 京都府　■主管：舞鶴ユネスコ協会

テーマは「今、そして明日の地球社会に生きる～つなぐ　広げる　未来のために今、何をしなければならないか～」。舞鶴は戦後、大陸からの引き揚げ船が着く港でした。研究会は、引揚記念館の学芸員による講演をはじめ、引揚の記憶を未来に引き継ぐ取り組みとして、学生ガイドによる発表など「世界の記憶」に関するプログラムとなりました。また、芦屋ユネスコ協会による「芦屋未来遺産」の発表後、4つの分科会に分かれて事例発表やグループワークを行い、地元での活動や取り組みの改善などのアイデアを共有する参加型の研修会となりました。

地域の文化・文化遺産についての分科会

中国ブロック・ユネスコ活動研究会

■10月15日(土) 島根県　■主管：石見地区ユネスコ協会

石見銀山が世界遺産に登録されて15周年にあたる2022年、「SDGsと地域・町づくり」というテーマで、世界遺産と地域発展、若者世代による伝統文化の継承を中心とした講演や発表を行いました。「魅力ある大田のためのSDGs活用法」という基調講演では、島根県大田市の小学生による活動紹介をはじめ、地域の魅力と改善点をポストイットに記入するワークショップや、SDGsの観点から見た石見銀山の価値という視点での専門家の講演もありました。ほかにも、中国ブロック独自の活動「中国地区ESD推進団体表彰」の表彰式を行いました。

中国地区ESD推進団体への表彰式

四国ブロック・ユネスコ活動研究会

■10月30日(日) 徳島県　■主管：徳島ユネスコ協会

「持続可能な未来をつくるため」をテーマに実施。県担当者による『「四国遍路」、「鳴門の渦潮」世界遺産登録に向けて』と題した講演や、「世界の記録」遺産登録を目指す板東俘虜収容所に関する発表、地元高校生によるSDGsの取り組みについてのパネルディスカッション、プロジェクト未来遺産登録団体による活動紹介などを行いました。会場には発表した団体のパネルや「絵で伝えよう！わたしの町のたからもの」受賞作品を展示し、足を止めて見入る参加者の姿も見られました。

プロジェクト未来遺産の阿波人形浄瑠璃が披露された

九州ブロック・ユネスコ活動研究会

■11月5日(土)・6日(日) 鹿児島県 ■主管：徳之島ユネスコ協会

2021年に世界自然遺産「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」に登録された地域のひとつである徳之島。島内外から参加者が集まり「世界自然遺産の島から広げよう！寺子屋運動とSDGs」というテーマのもと、2日間にわたって開催しました。徳之島ユネスコ協会は2017年設立ですが、20年近く「書き損じはがき回収チャリティコンサート」を続けているなど、地域に根付いたユニークな活動について発表しました。ほかにも、環境省徳之島管理官事務所の職員から徳之島の生物多様性について学び、地元の小学生は島の特性や島を守る取り組みについて発表しました。

地元の小学生が島唄を披露

2022年度 第9回

アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム

教員研修会

2022年9月21日(水)～23日(金)、東日本大震災の被災地(宮城県気仙沼市)を訪問して実施しました。今年度助成校25校・25名と、2021年度助成校12校・12名の先生が参加。

参加者は、被災した階上(はしかみ)地区の小・中学校や震災遺構を視察し、現地の子どもたちや先生方などと直接対話し、震災を肌で感じながら、いつ起こるかわからない災害を自分ごととして捉えることの大切さを実感しました。また、専門家などによる講義やワークショップを通して先進的な減災教育の実践を学びました。 (教育支援課)

東日本大震災の津波により多くの犠牲者を出した杉ノ下地区の慰霊碑。視察の前に献花、黙禱をした

階上中学校生徒との対話で実感したこと

研修2日目に訪問した気仙沼市立階上中学校では、参加教員と3年生生徒が活発に意見交換。階上中の生徒の姿から、減災への取り組みは、生徒の生き抜く力を育てるだけでなく、持続可能な地域社会を創るうえで大切な役割を果たしていることがわかりました。対話の一部を紹介します。

教員 「階上中での減災活動で得たものを、どのように将来の夢につなげたいですか」

生徒 「私は、地域の市民力を上げることにより、地域の減災力を高めたいと考えています。そのため、どんな職業に就いても、地域の人と町づくりに関わり、中学で学んだことを広めたい」

教員 「中学生が発信することで、地域の大人の反応は変化しましたか」

生徒 「震災遺構での語り部活動や探求学習で地域の大人と連携する中で、減災に対する大人の意識も高まりました。生徒が行動することで大人が協力してくれ、それが地域の減災意識の高まりにつながっています」

階上中学校生徒と参加教員とが熱心に対話した

学校と社会とでともに減災の学びを築く

講師の及川幸彦先生(奈良教育大学)は、「学校・社会で減災教育の推進役として自覚を持ち、多面的な視野で減災を教育として捉えること」「地域や外部団体、NPOなど多様な主体と減災ネットワーク(N助)を構築し、子どもと地域とで一緒に減災教育の学びを築くこと」を参加教員に伝えました。

● 参加者の声 ●

- 現地を訪問し震災を肌で感じることができた。合わせて質の高い研修を受けたことで、自校の取り組みの改善の見通しが立てられた。
- 減災に対する考え方が整理され、何を目的に何を学べばよいか見えた。
- 全国の先生とのつながりができた。この縁を今後の取り組みに生かしたい。

最終日には研修総括としてワークショップを行い、最後に全体で意見を共有

教員研修会

【共催】気仙沼市教育委員会
【協力】アクサ生命保険株式会社、奈良教育大学ESD・SDGsセンター
【後援】文部科学省
【コーディネーター・講師】及川幸彦先生(奈良教育大学 准教授)
【講師】上田和孝先生(新潟大学工学部附属工学力教育センター 准教授、認定特定非営利活動法人SEEDS Asia アドバイザー)
【ファシリテーター】嵩倉美帆氏(公益財団法人笹川平和財団 海洋政策研究所 海洋事業企画部海洋教育チーム 研究員)
【研修協力】認定特定非営利活動法人SEEDS Asia
気仙沼市教育委員会、気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館
気仙沼市立階上小学校、気仙沼市立階上中学校
宮城県多賀城高等学校

世界寺子屋運動
ネパール・マデサ寺子屋完成

ネパール東部・第1州スンサリ郡マデサ地域に初めての寺子屋が完成。ここは教育ニーズや貧困率などを背景に政府から要望を受けた地域です。行政と住民とが運営に参画する寺子屋の仕組みを、将来的に全国に拡大することを目指しています。

9月8日の国際識字デーには、識字の重要性を啓発するイベントが行われました。行政担当官、教育関係者、住民、近隣学校の児童生徒など多くの人びとが集まり、伝統舞踊も華を添えました。今後は、女性の自立支援、養鶏、電気技術研修などさまざまな活動が予定されています。（海外事業課）

完成した寺子屋では国際識字デーに伝統舞踊が披露された

2021-2022 三菱アジア子ども絵日記フェスタ
国内表彰式が開催されました

1990年から開催されている「三菱アジア子ども絵日記フェスタ」は、日本を含むアジア24の国・地域の子どもたちが参加しています。

第15回目となった2022年は、コロナ禍で海外のグランプリ受賞者を日本に招へいすることができませんでした。そんな中、9月23日（金）に横浜市で国内の受賞者8名を表彰し、原画展を開催しました。受賞者たちは翌24日（土）、三菱みなとみらい技術館でYouTube体験や水素ロケット実験などの交流プログラムを楽しみました。（国内事業課）

（共催：三菱広報委員会、アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟）

横浜に招待され、表彰状を手にする子どもたち

富士電機株式会社　〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2（ゲートシティ大崎イーストタワー）TEL.03-5435-7111

お知らせ・募集

「第14期ユネスコスクールSDGs アシストプロジェクト」助成校募集！

日本ユネスコ協会連盟は、SDGs達成に向けた「持続可能な開発のための教育（ESD）」を実践するユネスコスクール（キャンディデート校含む）を対象に、今年度も活動費用の助成を行います。

■助成金額：10万円枠（60校程度）
　　30万円枠（5校程度）
■締め切り：1月10日（火）正午
■問合せ：国内事業課
※詳しくは、右のQRコードから特設HPをご覧ください。
（協力：三菱UFJ銀行）

第47回「みどりの絵コンクール」日本ユネスコ協会連盟賞決定

自然に親しみ、自然の美しさや大切さを知ってもらうことを趣旨として毎年開催している絵画コンクール。2022年は日本全国の幼児、小学生の皆さんから寄せられた2万7894作品から、最優秀賞9点、優秀賞32点、入選362点が選出。写真は「わたしが守りたい身近な自然部門」の最優秀賞を受賞し、日本ユネスコ協会連盟賞に選ばれた作品です。

（共催：三菱UFJ環境財団）

◀「キラキラひかるほたるぱしのホタル」藤井 菜々子さん（大阪府阪南市立桃の木台小学校2年生）

プロジェクト未来遺産2022の進捗について

日本の豊かな自然や文化を100年後の子どもたちに伝える未来遺産運動では、3年ぶりの「プロジェクト未来遺産」の新規登録に向けて、自然・文化の継承に取り組む市民の活動を募集しました。2022年度は、新型コロナウイルス感染症拡大などの影響により8月末まで募集期間を延長し、例年より多くの応募がありました。この後、2023年2月末開催予定の未来遺産委員会の最終選考を経て登録プロジェクトが決定します。

日ユ協連は映画「ラーゲリより愛を込めて」を推薦しています

大戦後、シベリアの強制収容所「ラーゲリ」に抑留されながらも生きる希望を失わなかった山本幡男（役：二宮和也さん）の半生を通して、平和の尊さ、平和への願い、そして人びとの愛を伝える本作品。ぜひご覧ください。
映画について詳しくは、https://lageri-movie.jp/

臨時総会・理事会・評議員会報告

■第74回臨時総会報告

10月1日（土）、東京都・新宿エルタワーサンスカイルームにて、第74回臨時総会を開催した。また、オンラインでの参加を受け付けるとともに、委任状を提出した会員のうち、希望者にはライブ配信を実施した。決議された事項は、以下のとおり。

【決議事項】
第1号議案　ユネスコ・アジア文化センターとの合併延期について
⇨ 原案どおり承認可決された。
第2号議案　定款第64条委員会からの報告を受けた個人会員の除名について
⇨ 原案どおり承認可決された。
第3号議案　定款第64条委員会からの報告を受けた構成団体会員の除名について
⇨ 原案どおり承認可決された。

■第551回理事会

11月12日（土）、オンラインにより開催した。

Ⅰ. 決議事項
1. 役員（理事・監事）及び評議員の選任に関する選考委員会の設置
⇨ 審議の結果、原案どおり決議された。

Ⅱ. 協議事項
・部会等からの報告・提案事項等
(1) 組織部会（11/8）
(2) 財務部会（11/11）
(3) 定款・諸規程改定検討部会（11/4）
(4) 世界寺子屋運動部会（10/28）
(5) 地域代表・青年代表理事会議（10/26）
⇨ 審議の結果、いずれも原案どおり決議された。

Ⅲ. 報告事項
1. 担当理事からの報告（地域協働型包括教育支援事業　テストランの進捗状況）小山田理事／（日ユ協連リーダーセミナー）吉田理事
2. 第74回臨時総会の開催報告と今後の対応の方向性
3. 2022年度 中間決算報告
4. 2022年度 事業進捗報告
5. 代表理事の職務執行状況報告（2022年9月11日～2022年11月11日）
6. 後援・共催事業
7. 情報セキュリティ監査報告
8. 第55回評議員会議題
9. その他（2022年11月14日 内閣府立入検査について）

■第55回評議員会

Ⅰ.報告事項
1. 2022年度　事業進捗報告
2. ユネスコ・アジア文化センターとの合併延期について
3. 日ユ協連個人会員炭谷宇紀子氏及び千代田ユネスコ協会の除名について
4. 次期役員改選（2023-24）実施の変更点について

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟は、UNESCO憲章の精神に共鳴した人びとによって1947年、世界にさきがけ仙台で始まった、民間ユネスコ運動の日本における連合体です。現在全国に約280のユネスコ協会・クラブがあります。会長：佐藤美樹　副会長：青木保・大津和子　理事長：鈴木佑司

ユネスコ
2023年1月1日発行 通巻第1176号（1、4、10月の1日発行・年3回）●発行／公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟
〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-3-1 朝日生命恵比寿ビル12階　TEL 03（5424）1121　FAX 03（5424）1126　発行人：鈴木　佑司